

# 令和元年度 第1回湯河原町総合教育会議 会議録

日 時 令和元年7月26日(金) 午後1時30分～2時35分

場 所 湯河原町防災コミュニティセンター2階206会議室

出席者(委員) 町長、副町長、教育長、早藤委員、小松委員、貴田委員、西山委員  
(事務局) 地域政策課長、企画係長  
(教育委員会事務局) 参事兼学校教育課長、学校教育課教育指導担当課長、  
学校教育課副課長、社会教育課長、図書館長、美術館長

傍聴者 3名

## 1 開 会

## 2 町長あいさつ

皆様こんにちは。梅雨も明けない中、今晚は台風の状況が気になるところでございますが、大変暑い中、令和元年度第1回湯河原町総合教育会議ということで、委員各位にご出席いただきまして、本当にありがとうございます。

この防災コミュニティセンターが竣工して、共用開始が7月1日からということで、教育会議もこの場所で初めてとなります。この施設のみならず、この土地を含め旧湯河原中学校のすべての色々な方向付けには、今まで委員各位にはそれぞれのお立場から、そして慎重な考えのもと、ようやくここまで来たという感じがいたします。いずれ、県の施設ですが養護学校等も整い、この場所全体が福祉、または防災の拠点という、ようやく見える形で機能し始めるということでございますので、大変ありがたく思っております。

また、直接教育委員会のことではないのですが、先日7月23日付けの神奈川新聞に、保育園で「外国語に親しんで」という取り組みの記事がありました。教育以前の保育園においても連続性を持ってということで、他の自治体より少し早めながら進めていこうという意見は、確かこの教育会議でも出たことですので、子どもたちも非常に興味を示しているようで、案ずるより産むが、という感じがありましたけれども。この流れがいずれ小学校、中学校へと良い形でつながっていくという、時間がかかることではありますけれども、子どもたちが小さなころから外国語を肌で感じていただくということが極めて大切なことだと思いますので、1点ご報告させていただきます。

今日、いくつかの案件がございますが、傍聴の方もいらっしゃる中で、学校給食について、先日の統一地方選挙の際に約1,200名の署名をいただきました。その全てが学校関係者ではないようですけれども、町の方といたしまし

でも、その活動をされている方々と以前も小児医療費の助成について同じ行動をされておりますので、同じ形で受け取りをさせていただいたところがございます。したがって、この給食費につきましても、若干踏み込んだご検討を、というようなことになろうかと思えます。これまでも皆様の色々なご意見をいただく中で、基本的に自校方式以外は湯河原には当てはまらないだろうと。センター方式もしくは、親子方式はなかなか難しいと考えております。デリバリー方式はこれまで色々なアンケート調査や皆様の声を聞く限りでは、選択肢にはないという、ここまでは煮詰まっているという認識を持っているところがございます。今後、本格的にこれを考えていくとなると、自校方式でという限られた中での色々な調査をしていくことになると思っておりますが、私の一存でどうなることではありません。ただ、ご議論いただく枠組みとしては、過去の経緯を踏まえていくとそういった煮詰まった経緯の中で、今後方向性問わず、各関係者の方々の意見を慎重に聞きながら進めていくことになると思えます。色々な町民の方が注目されていることなので、ぜひ忌憚のないご意見をいただければと思います。

こんなお願いをさせていただき、私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いたします。

### 3 教育長あいさつ

皆さん、こんにちは。本日は、令和元年度第1回総合教育会議のご開催、誠にありがとうございます。

また、令和の時代の幕開けと共に、真新しい教育委員会の事務室に移転をさせていただきましたことを重ねて、御礼申し上げます。

さて今週から夏休みがスタートいたしまして、なかなか梅雨も明けない中でのスタートとなりました。教育委員会といたしましては、この夏休みの期間を利用して校舎等の施設整備に取り組んでいるものでございます。

また、さきほど富田町長からご紹介いただきました保育園、それから幼稚園児の外国語活動につきましても報道のとおりでございまして、順調なスタートが切れたのではないかと、ほっとしているところでございます。

さらに美術館におきましては、平松名誉館長の集大成とも言うべき「湯河原十景」の展覧会を実施しておりますが、大変ご好評を博しております。このほかにも、夏休みにおきましては、様々な事業を今後展開する予定でございます。町長、副町長におかれましては、教育委員会の事業に対して予算措置等、多大なるご配慮をいただいておりますことに、感謝申し上げます。

それでは、本日の会議におきましては、教育委員会の方から中学校給食、そして町民体育館駐車場整備計画の2件についてご報告するとともに、ご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

#### 4 案 件

##### ア 中学校給食について…資料No.1

○資料No.1を説明（参事兼学校教育課長）

○質疑

（町長）

…実施に向けた検討について、これまで様々ご検討いただいている中で、お弁当の方が良いのではないかと、といった声もある中で、完全給食をどういった方式で実施するのか、様々な方法がありますが、湯河原町においては自校方式の完全給食を希望する署名を提出いただいたということだと思います。

（教育長）

…平成26年4月から28年3月まで2年間に渡りまして、皆様にご検討いただいたところでございます。その中で、他市町村で採用が進んでおりましたデリバリー方式を本町も検討しておりましたが、給食実施についてのアンケート結果では、小学生では40%、中学生においては25%という低い回答でありました。誰のための給食なのかを考え、教育委員会としてもアンケート結果を重く考えているところでございます。県内の多市町村でも動きが出てまいりまして、学校給食を実施していない町村は葉山、寒川、真鶴と湯河原の4町でございます。また、葉山、寒川については動きがあるようです。保護者などからの要望も引き続きございますので、自校方式の検討を中心に皆様からもご意見いただきたいと思っております。

（西山委員）

…半月程前の朝日新聞の記事ですが、奈良の中学校で給食を実施したというものがありませんが、学校給食法が成立した経緯の中で、子どもに貧富の隔たりを感じさせないという大前提があるというものでして、正にその通りだなと思っています。私自身も小学校を卒業して中学校からはお弁当という経験があります。時々自分でも作っていましたが、当時、中学校の近くのお店にパンを頼んだりということもありました。中学校というのはお弁当を持っていくということが当然でありましたが、今、改めて考えると自分はその当時お弁当が準備できたれども、昨今の教育現場で様々なお子さんや家庭と接すると、お弁当を作って持たせるということも大変に

なるという家庭もありますので、是非、給食が実施できる方向で検討をしていただきたいと思います。

もう1点ですが、給食を実施するにも財源が必要であると思います。コスト計算などされるとは思います。自校方式では導入当初の出費は大きいと思いますが、先ほどの奈良の記事にもありましたが、10年先、20年先を見据えて、例えば調理を民間へ委託することなども踏まえ、工夫していただき自校方式を検討していただきたいと思います。今いる子ども達、難儀しているご家庭の方に少しでも早く、そういった状況から脱することができるかもしれませんので、貧富の差が生じないような施策となっただきたいと思います。

(早藤委員)

…中学校の給食については、どこまで必要なのかという思いがありました。これまでの経過の中で、給食を実施していくという方向は必要であろうと思いますが、方式として、要望書にあった自校方式が良いという点については疑問があります。町や教育員会と一緒に検討するにあたり、10年先、20年先の町の人口情勢、教育施設なども考慮していかないといけないと思います。これは中学校の給食の話だけでなく、小学校の給食、あるいは福祉、高齢者用の給食についても今後、課題となってくると思います。こういったことも考えていかないと、場当たりに目先の議論ではなく、先を見据えた議論をしていかないと、結局は町の財政に大きな負担になってしまうと思います。折角良い事をやろうとしているのに、データをもとにした検討にしないといけないと思います。

(小松委員)

…私も世の中の流れとして、給食の実施については良いと思いますが、どの小学校も児童数が最大だった時に比べるとかなり少なくなっています。給食の施設は当時の規模のままです。財源が豊富であれば自校方式が一番良いと思いますが、例えばおかずを何品か作るとして、1校で複数品作るより、複数校で分担して1品ずつ作り、それを中学校含め、分けるという方式は比較的早く実現が可能ではないかと思います。

(貴田委員)

…近い将来、小中学校の統廃合など、小中一貫校などを検討する時期が近いと思っています。そういった点も併せて考えていかないと、多大なお金と労力をかけて作ったものが無駄なものになってしまうことも懸念されます。もう1点ですが、10年後には30%子どもが減ってしまうということはその余力を何に使うのかということも大切だと思います。

(町長)

…給食そのものは必要ではないかというご意見であると思います。自校方式かセンター方式かという議論ですが、過去の議論ではセンター方式とすると、小学校に居る方々も反対であった、独自性が無くなるという意見がアンケートや検討委員会などで挙がったと記憶しております。判断の難しさはございますが、入口の議論として、自校方式、センター方式含めての議論としていくのか、例えば、実施に伴う日課の変更として、時間の変更が生じることによって、家庭によって、大きな変化が出てくるのかと思います。登校時間にもばらつきがある中で、給食を実施することの変更点というのは発信をした上で誤解の生じないようにしていかなければいけないと思います。給食の実施については、方法論、コストも重要ですが、こういった時間に限らず、他の変化も考えるものは発信していく上で、保護者の方々に考えていただきたいと思います。過去の色々な意見を踏まえると、小学校からはセンター方式については反対がありました。小学校の自校方式についても影響が出るということからだと思いますが、様々な観点から検討が必要だと思います。

(教育長)

…センター方式の議論の1つに場所はどこにするかというものもございます。

(早藤委員)

…2点よろしいでしょうか。1点目は時間についてです。授業の時間を短くするのか、帰りの時間を長くするのかという選択肢かと思いますが、資料では帰りの時間がプラス15分長くなるというものですが、子どもや保護者に影響もその通りですが、学校側も働き方改革の中で、労働時間や部活動の時間という点にも繋がってしまうので、教育委員会、事務方として影響が出てしまうと思います。こういった影響もあるということを示して、共有していかなければいけないと思います。既存の小学校の給食室を活用する、所謂、親子方式というものですが、現在の生徒の人数を考えれば実行の可能性があると思います。3つの小学校があるので、地理を鑑みても中学校に運ぶことが不可能ではないと思います。施設の経費だけでなく、ランニングコストや調理員についても、1箇所の新設するより、3箇所に微増の方が様々な面でメリットがあると思います。

(教育長)

…平成26年度にご検討いただいた際に親子方式についても1つの手法と

して検討いただきました。専門家の意見として、湯河原小学校と東台福浦小学校を検討した中で、基準が変更されている関連で、面積が不足するということでした。愛川町は親子方式を検討しているようですが、あらためて分析なども必要であると思います。

(参事兼学校教育課長)

…整備基準について、既存の学校の設備を現在の基準に適応するか、しないのであれば改修した上で、別の学校分の食数の対応というもので、当時の基準より厳しい負荷が適応されてしまいます。また、壁についても改修に該当してくるようであれば、耐震基準をクリアしている部分についても、改修後に耐震基準の達成なども観点としてございます。

(町長)

…行政運営の中でコストを下げていくという中で、東台福浦小学校以外は委託していますが、その際、栄養士1人が2校見るようになっていたが、地域の保護者から、「湯河原の小学校はそれぞれの学校でメニューが異なるのが良い」というご意見があり、1人追加で配置いたしました。当時は栄養士の費用を県の補助を活用すると、3校で2人までというものでした。なので1人は町単独で負担していました。現在は県の補助は1名だけですが、3名の栄養士で3校メニューも別でございます。このような経過もございますので、親子方式は合理性がある一方で様々なご理解が必要になってくるものがございます。

(早藤委員)

…例えばですが、東台の給食は中学1年、吉浜は2年、湯河原は3年という分担をすることで、学年が変わればメニューも変わるという工夫ができると思います。

(町長)

…非常に面白いアイデアだと思います。一方で、3校からの運搬コスト、食器を下げることもありますので、ソフト面での課題についても研究が必要だと思います。

(小松委員)

…私の子どもは小学校をもう卒業していますが、他の学校の子と同じ給食を食べることに抵抗はありません。現在のこういった立場になって、色々と人口動態や財政などのことも考えると、家計のやりくりをしている立場としては、町の将来的な状況を考えると自校方式はもったいないと思います。一般の町民の方で、行政に委ねる意識の方がいる一方でご自身の思いを強く発信する方もいらっしゃるもので、丁寧に説明することで、ある程度

理解は得られるのではないかと思います。

(町長)

…正にその通りで、先ほどの説明にもありました実施することによる時間の問題など変化について、保護者に伝えていく必要があると思います。代表の方だけでなく、広く共有していく必要があると思います。親子方式やセンター方式、自校方式など調査をしていきまして、現実論として情報を共有して進めてまいりたいと思います。

(西山委員)

…是非その方向でお願いしたいと思います。1点、中学校に自校式の施設が設置できるのか様々な角度から検討していただきたいと思います。仮に自校方式が残った場合にその時になって設置面ではこういう課題がありますということではなく、方式の選択時点で、自校方式の設置の可否なども併せてご検討いただきたいと思います。

(町長)

…大磯町の事例などを聞きますと、かなりの金額が掛かったようです。同一敷地内なら別棟であっても給食施設として認められるなど、基準も一定の柔軟さはあるようです。自校方式の身近な先進的事例として大磯町が参考となるようですので、校舎の中でなくても、同一敷地内ならば認められたが、反面コストが上がったということもあるそうです。

しっかりとした調査を実施させていただくという方向性で進めさせていただきたいと思います。

(副町長)

…大磯町はこれから基本設計から実施設計に移るものですが、様々な課題があり、対応をするにあたり、基となる基本計画の策定が必要となります。

(町長)

…調査を委託するにあたり、理想論だけでなく、実質的なハード面の考え方とソフト面も含めて検討していく必要があると思います。

(教育長)

…専門的な見地も必要となってまいりますので、そういった意見も皆様にお示ししていきたいと思います。

イ 湯河原町民体育館駐車場整備計画（案）について …資料No. 2

○資料No. 2 を説明（社会教育課長）

○質疑

(小松委員)

…工事は全面一度に行うのでしょうか。駐車場は利用できなくなってしまうのでしょうか。

(社会教育課長)

…現在、検討中でございます。

(町長)

…配慮はしてまいります。計画案ではありますが、障がい者の優先スペースが体育館側にあるが、新たに出来ます養護学校やたんぽぽ作業所など、道路の反対側にあるので、そのあたりの配慮も必要になってくると思います。あくまで優先というものだと思います。

(貴田委員)

…この駐車場を利用して、イベントを実施できるのでしょうか。

(社会教育課長)

…現在の計画としては、各駐車区画に車止めを付けない予定ですので、イベントの利用なども可能でございます。

(副町長)

…駐車スペースの65から73については、9m道路から入った方が近いのですが、JCHO方面に下る道と十字路になってしまうと警察から協議がありましたので、入口は1箇所としております。また、イベントなどの際は入口のバーを取り外しできるようにしています。車止めについても災害拠点という観点からも付けず、また、駐車スペースの間隔も広くしております。

(早藤委員)

…運動場の東側にトイレがありますが、この駐車場の付近に外用のトイレは設置するのでしょうか。

(副町長)

…この図面にはございませんが、中央区民会館の隣に男女障がい者が利用出来るトイレを設置する予定です。また、運動場の東側のトイレはそのままです。

(町長)

…区民会館とは別のトイレとする予定です。また、JCHOへの車道はぐるっと迂回しますので、階段を設置して直線的に移動できるようにする予定です。小田原養護学校が最終的に出来上がるのが再来年の予定です。

(早藤委員)

…防犯カメラは駐車場に対して設置するのでしょうか。

(副町長)



…駐車場と外用トイレ両方に設置する予定です。  
(町長)

…このような方向で進めさせていただきます。

## 5 その他

(町長)

…最後にその他ですが、皆様からございますでしょうか。無いようでしたら、以上となります。

## 6 閉 会